

えいききょうじほう

永敬寺報

二〇一五年十月十日

第九十四号

みやこ町勝山黒田二八〇九

電話(0930)3212141

ご案内

ごしきょうきほうおんこう

御正忌報恩講 巖修

十月三十一日、十一月一日、二日

○十月三十一日(土)

午前十時三十分

お勤め 御伝鈔(ごてんしょう)拝読

※法話・おときはありません

○十一月一日(日)

昼一時〜 夜七時三十分

正午〜おとぎ

講師 北九州市 徳蓮寺前住職 伊藤 元師

○十一月二日(月)

昼一時〜

正午〜おとぎ

講師 田川郡 正応寺住職 津垣 慶哉師

親鸞聖人は一二六二(弘長二)年十一月二十八日に、ご生涯を終えられました。聖人のご臨終は『ついに念仏の息たえましまし終わりぬ(念仏の声が途絶え、九十歳の生涯を終えられた、という意味)』と、念仏を貫かれたものでした。今日の社会は、自らの欲望のために、人と人が互いに傷つけあう痛ましい出来事が、日々繰り返されています。

念仏の教えを聴聞し、自分自身の生活を振り返る一年でもっとも大切な御仏事として御正忌報恩講を大切にお勤めしたいものです。お誘いあわせの上、ご参詣下さいますよう御案内申し上げます。

『真宗に生きる』

津垣正年師（正応寺前任職）

◎ ある人が冬の寒い日に道を歩いていたら、道の真ん中に黄金おっこんの小判こばんが落ちていました。・・喜んで拾ひろおうと思ったら、寒い日で凍こおりついて取れない。石ころか何かで、たたいて取ろうと思っただけども、あいにく石ころがない。そしたら、尿意によういをもよおしたそうです。おしっこをしたくなった。ああそうだ、こういう手があった。おしっこを周まわりにかければ、それが溶とける。

それで、おしっこをしぼり出して、道に落ちていた黄金の小判にかけたそうです。そうしましたら、暖あたたかいですから、だんだん溶けて、これはいいものが手に入ったと思って拾おうとしたそうです。つかんだと思ったら目が覚さめた。今あった黄金の小判はスツと消えて、困ったことだけが残った。その困ったことというのは、寝間着ねまきもフトンもびしょびしょに濡ぬれてしまって、どうしようもならんことになった。こういう昔話むかしばなしがあります。

◎ 何をたどえているかと申しますと、結局これは私たちの生きざまです。ああなればいい、こうなればいいと、一生懸命いっしょうけんめいに追い求めていく。しかし、気が付いたら困ったことだけが残ったという話です。

◎ 節分せつぶんの時に「福は内、鬼は外」、こう言って豆をまけば、悪いことをみな外に行くように思うけれど、こちらが鬼を追い出して

も、隣となりから追い出された鬼が入ってくるから同じことだと言っているのです。「福も内、鬼も内」、こつこつ眼まなこが必要なのです。

◎ いいことがあるば、必ず悪いことが裏うらについているというのが、人間社会です。今日の社会は非常に便利になり、冷蔵庫の中にはいつも何か入っている。エアコンを入れれば、冬は暖かく、夏は涼しく過ごせる。しかし、どんなに便利な社会になっても全部が いいことになるのではない。人間はだんだん脆弱へまじくばになり、人生最後になると、自分は何のために一生、今日まで生きてきたのだろうか、空しさだけを感じ、本当の安らぎや満足を感じられない。

◎ 私たちは迷まよう心を持っている。本当に信じられるものが見つからなければ、私たちは必ず迷うのです。

◎ 自分が一番かわいいという心、それを仏教では自我と言います。自我は終わりがなく、身体が老化しても、自我というものは案外、老化していかない。

◎ 自分の常識や自我で仏法がわかるものではない。自分の常識が どういうものであるのか、そのことを教えてもらうのが、実は仏教の教えに遇あうことの意味です。

◎ 仏様から私たちはみんな、仏になる種たねをいただいている。しかし、教えにあうという縁がなかったら、種は芽めを出す事がない。

◎ 正しい信心しんじんとは、自分の都合つうごうのよいことを仏様をお願いして念仏を称となえるということではない。現実げんじつにふりかかる一切いっさいの出来事を誤魔化ごまかさずに背負せおい、生きていく意味を見出していく。そのような力が与えられてくることを言うのです。

平成二十八年の年回忌

一周忌	平成27年寂	三回忌	平成26年寂
七回忌	平成22年	十三回忌	平成16年
十七回忌	平成12年	二十五回忌	平成4年
三十三回忌	昭和59年	五十回忌	昭和42年



《お知らせ》

仏教婦人研修会

一月十八日(月)正午から

七草がゆ、抹茶まっちゃ、おつとめ、DVD法話、福引ふくびき

春彼岸法要

三月二十七日(日)～二十八日(月)

講師は今年春彼岸にも、お出でいただいた熊本県
山田寺前住職 湯浅成幸様

おつとめ・七分法話

◎ 京都・東本願寺と同じ時間の朝七時から毎日、おつとめ・法話を行っています。七時二十分には終わります。どうぞお参り下さい。
◎ 二十八日は親鸞聖人(ごらんごうごんご)の命日です。毎月二十八日は法話の後、朝がゆ会を実施しています。